

爽涼の頃



はぐるま

朝夕の冷え込みを感じる

季節を迎え、いよいよ実り豊かな秋本番を迎えつつあります。一方、記録的な長雨がつづいたこの夏は、多くの悲しい災害が発生をしました。他人事としてではなく、備品管理や定期的な防災訓練などを通して、身近な所から備えていきたいと思えます。

危機管理については、一年前の「津久井やまゆり園」の事件が蘇ります。防犯カメラや厳重な戸締りの徹底がしばし言われましたが、異常な出来事の解決にはなっていないと感じています。

7月31日福祉新聞の一面【遺影なき追悼式】の見出しに、悔しい思いが溢れました。

犠牲者19人の氏名は伏せられ、遺影もなかったことについて、

神奈川県知事は、「本来犠牲者のお名前を申し上げ、遺影が飾られても不思議ではなかった。しかし今の日本の現状はそれが許される土壌ではないと感じ、とても残念に思った」と会見で述べています。

日本の現状は亡くなった方たちを悼むことすらも許されない、そんな貧困な社会であるのかと、そのことに痛さを感じます。

社会福祉法人としての役割は、優しく強い社会を作るためにあります。

「社会福祉法人はぐるまの会」は仲間たちが、元気でたくましく生きていくために、全力を尽くしていきたいと改めて決意しました。

石老山を満喫!!

天候に恵まれず、2年連続で中止となってしまうという登山活動でしたが、

10月5日、石老山での日帰り登山を仲間たちと分満喫してきました。この石老山は過去2回登っていますが、1回はゲリラ豪雨で途中下山となってしまい、今回が目標地点まで初登頂となった仲間たちが多くいました！

石老山登頂の途中には、歌人「柳原白蓮」が眠る「顕鏡寺」があり、樹齢数百年、神奈川県木100選に選ばれた大イチョウが、神秘的な雰囲気醸し出しています。

都心の町並みを眺めることができ、全員が通過するこのポイントで、足が不自由となってきた大ベテランの仲間が多くの後輩たちにエールを送っていました。

No.101

2017年10月13日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会

川崎市多摩区

菅馬場1-18-17

TEL 044-946-1308

歴史あるこのはぐるまの登山活動は、何と言っても本番を迎える日までの多くの学習と練習にその心髄があります。

山は普段の生活の中ではあたり前に享受できる利便性は全く存在しません。



山の岩場・斜面・不整地を想定した
アスレチック場での練習風景

途中で嫌になってしまっても自分の足と手を使って下山するしかなく、水や食べ物など自分に必要なものは自分で運ぶしかありません。一人では苦しくて登ることができないからこそ、仲間たちとの学習と練習を重ねた結果として目標地点まで登頂することができ、自身が誇れる自慢の活動として仲間たちの要求となってきたのだと思います。

今回、初めて登山に参加をした仲間の感想文には「坂では、手を使って登りました」「つるんと滑ってしまっただけ、手をついたのでOKでした」と書かれており、全身を使って山を登るという目標を達成できたという事がうかがえます。

そして、文末には「もっと頂上を目指した

い！」「高いところからの景色を見てみたい！」と次回への強い意欲が感じられました。



新人仲間たちの雄姿！



参加者にケガもなく、仲間たち自慢の登山活動が無事に終了できたことを「報告する」と共に、多くの関係者の皆様にご報告する

この場をお借りして御礼を申し上げます。

仲間たちがたくましく、この社会で生きていくために必要な活動として、30年間「登山活動・夏季合宿」を継続してきました。職員の会の議論の中では、危険を伴う登山の是非を問う意見もありましたが、この活動なくして、今日のはぐるまの仲間がなかったことを再認識するとともに、将来どのような活動として継続・発展させてゆけば良いのかを、仲間自治会と共に追及していく事が職員に求められていることを学ばせてもらうことのできた石老山での登山活動となりました。

パンづくりって 楽しいが

大変でもある



6月に仲間の編成を行い3か月がたちます。第1作業所では全体会での報告通り製パン作業に取り組んでい

ます。

手洗いからはじまり、身支度、道具の準備と製パン作業に入る前の段階でも学習することとはたくさんあります。パンの工程においても計量、生地を同じ重さに分ける「分割」、表面をなめらかにする「丸め」、最終的に形をつくる「成形」など、一つ一つが微妙な加減を要するので一筋縄ではいきません。それでも仲間職員ともども一歩一歩、半歩半歩でも前に進んでいかねばなりません。

はぐるままでその活動の中心にしてきた「労働」。それは労働こそが人を人たらしめたるものであるという歴史的な事実から考えていることです。木の上の生活から手を自由にするために二足歩行になり、道具を作るために手指の操作性を発達させ、自然に働きかけ食料を栽培し、役割分担を伴った集団を形成し、ことばを発達させ、文化を築いてきました。

その法則性にとっとり、はぐるまでは手指

を使って対象物に働きかけ形を変え、手を加えて生産物に仕上げていく労働を用意してきました。製パンは予想以上にハードルが高く、当面は職員が中心となりながら、あるいは既製品も併用しながらの生産となります。今は一つずつ仲間の仕事にするため基本の丸パンを仲間ですりきれるように特訓中で、売れ筋の塩パンも販売している大部分が仲間が成形したものです。不格好な商品と思われるかもしれませんが、それでも選ばれやすい商品を目指します。

現在、月に一回、プロのフレンチシェフ菊池さんと、仲間と一緒に商品につながる焼き菓子などを実際に作る「料理サロン」を開催しています。いずれは、はぐるまで育てた農作物を使って目玉商品になるような逸品ができるようなパンに限らず幅広く可能性を広げていきたいと思っています。

(金田 圭二)



三十年後の十三浜との繋がりを専見て！

青山商店さんの美味しいワカメは、食べていただいておりますでしょうか？

はぐるまの自慢に、たくさんの方の素敵なご縁があります。皆様の食卓にお届けしている十三浜青山商店さんのワカメと昆布は、その代表です。

この海産物の販売活動の原点は、今から30年以上も前、はぐるまの創設期にまでさかのぼります。当時、高津養護学校でPTAの役員をされていたご家族会の方たちで、資金集めのために十三浜大指の青山商店さんの海産物を販売し、利益を学校へ寄付をしていた活動からはじまります。

高津養護学校の卒業生は、川崎市内の様々な働き場と暮らしの場へと巣立って行きますので、現在でも市内の数多くの施設で青山商店の美味しいワカメと昆布を販売しています。

はぐるまの仲間たちによる販売活動を開始してから20年を迎えるこの時期に、私たちがお世話になってきた青山商店さんの三代目となる青山喜信（よしのぶ）さんが、はぐるまの仲間たちに会うために川崎へ来ていただきました。

作業所を見学していただく中で喜信さんは「はぐるまの仲間の皆さんがとても働き者なので、驚きました！」

「自分たちも皆さんに負けないよう美味しいワカメと昆布を作り、たくさんのお客さん

に食べてもらえるよう頑張りたい！」とおっしゃってくださいました。



仲間の一番自信のある働く姿を見てもうことができました！

先日、仲間たちと一緒に青山商店さんのワカメと昆布のお客さんを増やせるよう、のぼり旗とポスターのデザインを考案しましたので、この秋のバザーシーズンには、ピカピカののぼり旗と共に「青山商店さんの美味しいワカメはいかがですか！」「十三浜のワカメは美味しいですよ！」と、自信を持って販路を拡大していきたいと思っています。



素敵なのぼり旗とポスターを作成中ですので、楽しみに！



青山喜信さんとの打ち合わせ

二ヶ領一斉清掃を実施しました!

今回の日よりでは、仲間たちの自慢の活動をご紹介します。仲間たちが20年間に亘り続けている地域清掃もその1つとなります。

環境保全団体であるNPO法人多摩川エコミュージアムの推薦により、第1作業所(はぐるま共同作業所)の仲間たちが継続してきた二ヶ領用水を含む地域清掃活動が高く評価をされ、9月24日(日)の一斉清掃活動では、自治会・町内会、NPO法人や企業の方々と協働で開催をしました。



さて、今回の二ヶ領一斉清掃では、

多摩区々幸区までの流域全体での清掃が市民の手によって実現をしました。当日は、大学生のボランティアやご近所の方と一緒に多摩川の取水口く橋本橋までの範囲のゴミ拾いを実施し、15袋程の成果がありました。「自分たちの暮らす町は自分たちの手でキレイにする!」という仲間の活動の原点に立ち会えた休日となりました。

優雅なランチタイムしてきました!

稗原農園での収穫祭やはぐるま共同作業所での料理サロンで仲間たちへの熱い料理指導をいただいている菊池シェフが新たにフランス料理のお店を開店しましたので、仲間たちと共に祝いを兼ね、貸し切りで優雅なランチを楽しんできました!

高級感のあるお店で食べるおいしい料理は、気持ちまで優雅になるものです。仲間たちは上手にナイフとフォークで食事ができました!



菊池シェフ、ごちそう様でした!



カルペディウム

営業時間
ランチ 11:30~14:00 奥平約
ディナー 18:00~22:30
定休日 水曜日・隔週火曜日

テラス席8席 メインダイニング8席
カウンター6席 個室4席
エレベーター有り 車いす可
来就学入店可 応相談

〒188-1 神奈川県川崎市多摩区登戸1889-1 第二井出ビル2F
TEL/FAX 044-819-6471

11月3日(文化の日)に

収穫祭2017を開催いたします!

毎年恒例の「はぐるま稗原農園収穫祭」を、11月3日(文化の日)に開催いたします。早いもので5年目を迎える

「はぐるま稗原農園収穫祭」は、今では近所の方々の恒例行事の1つとなっています。今年も様々な企画をご用意して皆様をお待ちしております。※収穫祭のチラシを同封させていただきましたので、人気企画の確認を上で、是非ご家族ご友人とご来園ください!

ご寄付をいただきました

あたたかいご支援をありがとうございました!

- ・ 大黒屋様
- ・ あさお市実行委員会様
- ・ 岩田洋子様
- ・ 志岐チエ子様
- ・ (有)橋場商店様
- ・ NPO法人市民後見いきいきNet所沢 中川博之様
- ・ 緑化センターボランティアグループ れもんぐらす様